

小 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

研究主題

I 研究主題設定の理由	1
II 研究内容（研究構想図）	2

第3学年及び第4学年分科会研究主題

I 研究主題設定の理由	3
II 研究仮説	4
III 研究内容	4
IV 研究の成果	6
V 研究の課題	6

第5学年分科会研究主題

I 研究主題設定の理由	7
II 研究仮説	8
III 研究内容	8
IV 研究の成果	10
V 研究の課題	11

第6学年分科会研究主題

I 研究主題設定の理由	12
II 研究仮説	12
III 研究内容	13
IV 研究の成果	16
V 研究の課題	16

研究主題

社会的事象について主体的に追究しようとする児童の育成

～児童の学習改善につながる振り返りの指導の工夫～

I 研究主題設定の理由

本研究の開始時に、研究員が各自の授業の分析を行ったところ、「課題把握の場面では児童の興味・関心を高めることができても、課題追究の場面では学習問題や学習計画への意識が薄くなり、追究意欲を持続させることができている」「児童が振り返りを効果的に活用する指導に課題がある」ということが分かった。そのため、児童が学習問題を追究するための振り返りの手だてに課題があると仮定し、育てたい児童像を「主体的に学習問題を追究する児童」「問題解決に向けて、自らの学習状況を確認する児童」と設定して議論を進めることとした。

この課題の改善に向けた協議を行う中で、本研究では児童の主体的な学びに着目した。「小学校学習指導要領解説社会編」（平成29年7月）には、「主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか（中略）といった視点で授業改善を進めることが求められる」と示されている。主体的な学びの実現には、「児童が社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組むようにすることが求められている」。そのために、「学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見いだしたりすること」が必要であるとされている。児童の学習意欲の向上は学習指導要領でも重視されており、特に主体的な学びとの関係から見通しをもったり振り返ったりする活動は重要である。そこで、本研究ではこれらのことを踏まえ、全体主題と副主題を設定した。

なお、主題にある「振り返り」とは、学習のまとめと区別して考えることとした。学習のまとめは学習内容についてまとめ、理解し定着を図る活動とし、振り返りは自分の学習のあり方を確認し、改善する活動として捉えている。振り返る対象は、学習内容への自分なりの考察、学習活動の効果、これからの自分の生活などが考えられる。

また、「学習改善」とは児童が問い、見通し、予想、学習計画など学習の過程を振り返り、課題解決に向けて学習してきたことの改善を図ることと考えることとした。めあてを達成することができるか、課題解決のために調べることはないか、などの視点から児童が自らの学習を振り返ることなどが考えられる。

以上の点に基づいて、主体的に追究しようとする児童の育成に必要な振り返りの方策について、発達段階を考慮しつつ、学習内容を検討して、各学年分科会で研究を進めた。

II 研究内容（研究構想図）



自らの学習を振り返って、次時の学習に向かうことができる 児童を育てるための社会科指導の工夫

I 研究主題設定の理由

研究主題の設定にあたって、研究員の実践記録を分析した結果、「児童が前時と本時のつながりを見いだせるような指導ができていない」、「教師が振り返りを効果的に活用できていない」という課題が抽出された。そこで、分科会でこれらの原因を協議したところ、学習問題は、何を問うているのか、その学習問題を解決するためには何を調べ、どう考えていけばよいのかといった問題解決の見通しを児童にもたせることが不十分、何について振り返るのかを教師が児童に明確に示していない、といった課題があることが分かった。

見通しと振り返りについて「小学校学習指導要領（平成29年3月）解説 社会編」には、「主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である¹。」と示されている。また、振り返りについて「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）（平成31年1月）」の中では、「児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫²」や「小学校低学年・中学年段階では、例えば、学習の目標を教師が『めあて』などの形で適切に提示し、その『めあて』に向かって自分なりに様々な工夫を行おうとしているかを評価すること²」が求められている。

そこで本研究では、全体研究主題にある「主体的」を、「見通し」と「振り返り」という学習活動に着目し、研究主題を「自らの学習を振り返って、次時の学習に向かうことができる児童を育てるための社会科指導の工夫」と設定した。そして、以下の二つの視点から授業実践を通して、検証することとした。

第1に、課題追究の学習過程において、振り返りを次時につなげることができるようにするために、振り返りと次の学習への見通しをもつ活動を一体として行う（次ページ図1参照）。振り返りと次の学習への見通しをもつ活動を行う際には、児童が学習問題や予想、学習計画に立ち返ることができるようにした。この課題追究の学習過程における一単位時間の授業構成により、児童が次時の学習内容や問題解決への見通しをもちやすくなる考えた。

第2に、振り返る内容を分類し、振り返りを方向付ける発問や指示の工夫を行う。本研究では、学習のまとめと振り返りを次のように区別して考えている。学習のまとめを「本時のめあてや学習課題に対して、授業で何を学んだのかを明確にする活動」と捉え、振り返りを「授業を通して、児童が何が分かるようになったのか、どんな変容があったのか、もっと考えたいことなどについて自覚するための活動」と捉えている。振り返りの内容は、授業のねらいに沿ったものでなくてはならないため、児童が振り返りを行う前に本時で学んだことを

¹ 「小学校学習指導要領（平成29年3月）解説 社会編」 文部科学省 p. 8

² 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）（平成31年1月）」 文部科学省 p. 13

学級全体で確認し、授業のねらいに沿った振り返りができるように指導を行う。その際、学級全体で学習のまとめをした後に、「本時の学習を基に、次の授業で何を調べてみたいか」「調べる必要のあることは何か」など、教師が振り返りの視点を明確にする発問や指示を行う。児童は、その視点を基に振り返りを行うことで、児童は課題解決に向けて意欲的に学習に取り組むことができるだろうと考えた。

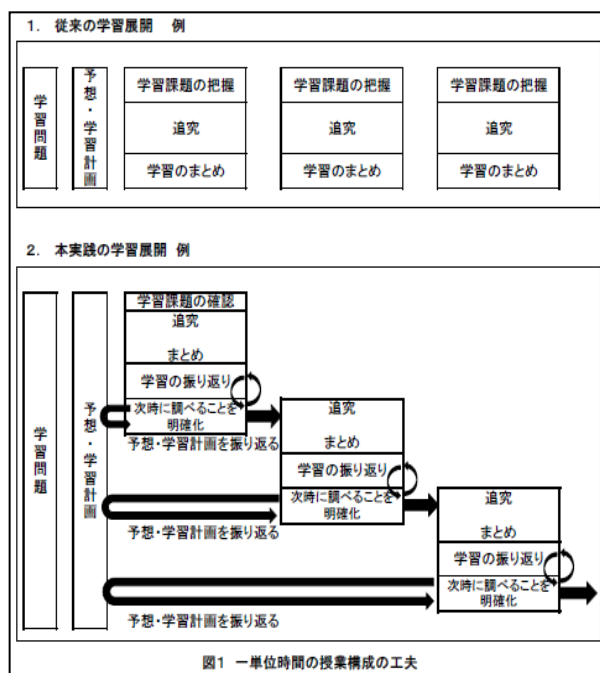
II 研究仮説

問題解決的な学習の充実を図るために、課題追究の場面において、学習内容や自己の学びを振り返る発問と、次の学習へのめあてを明確にする指示をして、振り返りと次の学習への見通しをもつ活動を一体とする授業を構成すれば、児童は次時の見通しをもちながら、主体的に学習問題を追究することができるだろう。

III 研究内容

1 課題追究の学習過程における一単位時間の授業構成

本研究では、単元の課題追究の学習過程において、学習の振り返りと次時への見通しをもつ活動を一体として行うために、一単位時間の授業構成を図1のようにした。従来の学習展開と異なる点は、一単位時間の学習のまとめをした後に本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ時間を設定することである。次時への見通しをもつ時間には、次時の学習課題を見いだしたり、学習内容を把握したりできるようにする。そのために、学習問題や予想、学習計画に立ち返らせ、必要に応じて次時の学習に関する資料を提示する。例えば、実践事例の本時では、見学を通して分かった消防署の工夫を全体でまとめ、確認した後に、本時の学習や学習問題・計画を振り返らせ、次時に学習する内容について考えさせた。それらを学級全体で交流する中で、次に学習する内容の見通しをもたせ、次時の学習課題を把握させた。



2 振り返りを方向付ける発問や指示

児童が本時の学習をまとめ、学習を振り返る際には、視点を明確にした教師の発問や指示が必要であると考え、本研究では「小学校学習指導要領（平成29年3月）解説 社会編」を分析し、以下のように振り返りを分類した。そして、教師が振り返りの視点の違いを理解し、振り返りを行う場面においてどのような発問をすれば、児童が授業のねらいに沿った振り返りができるかを吟味しながら実践を重ねた。具体例として、実践事例の本時では、消防署の見学を通して分かった工夫を全体でまとめた後の振り返りとなった。そのため、小単元の学

習問題や計画を振り返らせ、火事からくらしを守るために、本時まで学習した消防署以外に誰がどのようなことをしているのかに目を向けさせた。そして、次時以降の学習内容（消防団の働きや学校・地域にある消防施設）へと目を向けさせるようにした。その際に、第1時で使用したイラストを活用し、児童が自らの学習に見通しをもてるように授業を展開した。

振り返りの分類

- (A) 今日の授業で学習したことを振り返って、考えたことや思ったこと（感想、意見、予想、疑問など）を挙げる。
- (B) 今日の授業で分かったことを、自分がそれまでに知っていたこと・思っていたことと比べる。
- (C) 今日の授業で学習したことを基に、次の授業で調べたいことを考える。
- (D) 今日の授業での調べ方（ビデオを使って調べる、見学に行って調べる など）、まとめ方（班で話し合っまとめる、表にまとめる、思考ツールを使ってまとめる など）を振り返る。
- (E) 学習問題に対する自分の考えを、今までの学習で分かったことを基に、比べたり・つなげたり・まとめたりして考える。
- (F) 学習したことと自分とのつながり・関わりを考えたり自分の生活を振り返ったりする。

3 実践事例

児童の記述

分析

小単元「火事からくらしを守る」（全11時間）

【課題把握】

- ① 写真や映像、イラストから火事の様子に関心をもつ。
 - ・火災現場の様子の写真や映像、イラストから、誰が何をしているのかに目を付けて話し合う。
- ② グラフから区内の火災の様子を読み取り、学習問題をつくる。
 - ・区内の火災発生件数、焼失面積の推移をまとめたグラフを読み取り、平成20年からの10年間で火災件数・焼失面積が減少していることから、学習問題を見いだす。

【学習問題】 火事からくらしを守るために、だれが、どのようなことをしているのだろうか。

- ③ 学習問題に対する予想をし、学習計画を立てる。
 - ・第1時で使ったイラストから、火災現場で「誰が」「どのようなことを」しているのかに注目し、学習計画を立てる。

【課題追究】

- ④⑤ 地域の安全を守るための、消防署の緊急時に備えた体制や働く人の様子を、見学を通して調べる。
 - ・地域の消防署の見学をする。（見学の視点、見たもの…①消防自動車の様子、②防火服の様子、③交代して24時間勤務を行っている様子、④短い時間で火災現場に向かうための訓練や準備の様子）
 - ・調べて分かったことをミニ新聞にまとめる。
- ⑥ 消防署が地域の安全を守るために、緊急時に対処する体制をとっていることを理解する。
 - ・前時で作成したミニ新聞を、項目ごとに分類・整理し、それぞれに小見出しを付ける。
 - ・小見出しとその内容を全体で確認し、学習課題について分かったことをまとめる。
 - ・学習の振り返りを行い、次時の見通しをもつ。

いろいろな工夫をして、速やかに出勤するんだな
と思いました。次は、水道局や病院の関係や、他
にも火事の時に働くところを調べたいです。

学習課題に対して分かったことをまとめた後に、振り返りと次
時への見通しをもつ時間を取ることで、児童は消防署以外の関係
機関の働きに関心を持ち、追究意欲を高めることができた。

- ⑦ 関係機関は、地域の安全を守るために相互に連携して対処する体制をとっていることを理解する。
 - ・火災現場で誰が働いているのかを、イラストから読み取る。
 - ・119番通報からの連絡の流れについて、教科書の関係図から読み取る。
 - ・学習課題について分かったことをまとめ、学習の振り返りを行い次時の見通しをもつ。

今日の勉強に消防団が出てきたので、消防団とは何なの
か、消防署と同じではないのかと、とても疑問に思いまし
た。次は、消防団とは何なのか、消防署と似ているところ
や違うところなどをきちんと調べたいと思います。

関係機関が連携していることを表した図を読み取る中
で、消防団の役割に関心をもった児童が多くいた。そこ
から、次時に調べることとして消防団の働きを挙げるこ
とができた。

- ⑧ 消防団の働きについて調べ、地域の人々が関係機関と協力して火事の防止に努めていることを理解する。
 - ・消防団の働きについて、教科書や副読本、映像を使って調べる。
 - ・地域の消防団で活動している人のインタビュービデオ（消防団の働き、訓練の様子、小学生にお願いしたいこと）を見て、消防団の様子と働きについてさらに調べる。
 - ・学習課題について分かったことをまとめ、学習の振り返りを行い次時の見通しをもつ。

消防団は、地域の人たちが作る組織だと分
かりました。次は、消火栓や防火水槽がどの
ような働きをしているのかを調べたいです。

消防団の人のインタビュービデオを通して、児童が地域には消火栓
や防火水槽があることを知ったことから、次時に調べることとして、
消火栓や防火水槽などの消防施設・設備を挙げる事ができた。

- ⑨ 地域の防災に関する施設・設備の配置を調べ、火事の被害が広がらないように工夫して配置されていることを理解する。
 - ・地域にある防災施設・設備を知り、地図（「わがまち防災ネット」…大田区ホームページより）から、地域の消防施設・設備の配置を調べる。
 - ・地域の防災施設・設備の役割を、教科書や副読本を使って調べる。
 - ・学習課題について分かったことをまとめ、学習の振り返りを行う。

調べてみて、地域にも火事を防ぐための施設が多くあることが分かりました。いろいろなところにあるので、火事になってすぐに火を消すことができるのではないかと考えました。	地図から、身近な地域に消火器や消火栓などの施設・設備が多くあることを読み取り、火災の防止とつなげて考えることができました。
【課題解決】 ⑩⑪ 調べたことを基に、学習問題に対して分かったことをまとめ、自分にできることを考える。 ・学習問題に対して調べて分かったこと（消防署の働き、関係機関の連携、消防団の役割と働き、地域の防災施設・設備の配置と役割）を整理し、新聞にまとめる。 ・火災の件数、焼失面積のグラフから、今もなお区内で火災が多く発生していることを確認し、火災のさらなる減少のために自分たちにできることを考え、新聞にまとめる。	

IV 研究の成果

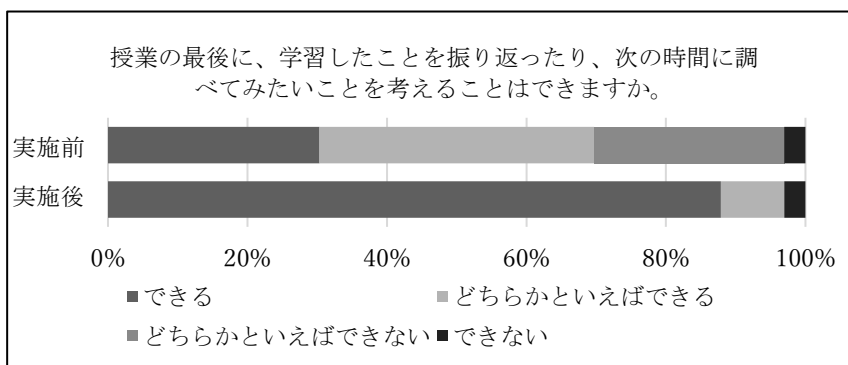
1 課題追究の学習過程における一単位時間の授業構成

本時の学習課題を解決した後に本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ時間を設定した授業の児童の振り返りを蓄積し、分析した。その結果、次の学習で何を学習するのかを考え、ノートに表現することができる児童が増えた。以下は、児童の振り返りの変容の一例である。

[本時の学習をまとめ、振り返りとともに次時への見通しをもつことができた児童の変容]

「くらしと工場」(9月上旬実施)	「火事からくらしを守る」(11月下旬実施)
工場は大田区が一番多い。	火事からくらしを守るために、いろいろな工夫をしていた。次は、消防士以外にもだれがどのようなことをしているのか知りたいです。
(考察) 工場の業種や区内での分布には注目せず、数が多いことのみ記述に留まった。	(考察) 見学を通して知った工夫を学級で話し合い、いろいろな工夫があることを理解した。また、学習を振り返り次時の見通しをもつこともできた。

本単元実施前と実施後に行った実態調査の結果からも、児童が学習したことを振り返ったり次時への見通しをもったりするようになったことを読み取ることができた。



2 振り返りを方向付ける発問や指示

振り返りを分類し、それぞれの授業でどのような発問をすれば適切かを考え、実践を重ねていく中で、児童の振り返りの記述が次時への見通しをもつ内容へと変容してきた(3 実践事例「児童の記述」参照)。さらに、当初、振り返りの視点が(A)(C)中心だった児童が、実践を重ねていくうちに(B)(D)(E)(F)などの視点でも学習を振り返ることができるようになった。このことは、児童が自らの学習を多様な視点から振り返ることができるようになったことを示しており、児童の学習改善につながるものと考えられる。

これらの二つの研究成果から、本研究を通して児童の追究意欲が向上していることが明らかになった。

V 研究の課題

- ・ 単元や小単元によって指導内容にそれぞれ特性があるため、一単位時間の授業構成において、振り返りと次時への見通しをもつ時間の配分について検討を重ねる必要がある。
- ・ 全ての単元では実施できていないため、課題追究の学習過程においてどのような発問をすれば適切であるか、今後も検証を続けていく必要がある。

自らの学習状況を確認しながら、主体的に学習問題を追究しようとする児童を育てるための社会科指導の工夫

I 研究主題設定の理由

本研究において、各部員の実践記録を分析した結果、課題把握の段階で児童の興味・関心を高めても、学習が進むにつれて追究意欲を持続させることができていないという共通の課題があることが分かった。特に、発展的な学習内容を含む内容において、単元を貫く学習問題を設定しづらいことがあり、児童に学習の連続性を感じさせることができず、主体的に学習に取り組ませることができていない傾向があると考えた。本分科会では、これらの課題の原因を、学習の振り返りを問題解決に十分に活用できていなかったこと、問題解決のために必要な内容を児童に検討させることが不十分であったことにあると考えた。

学習過程における振り返りについて、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」には、問題解決的な学習過程の充実を図る際に、「児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる³」と示されている。

これらのことから、学習計画をつくる段階では考えていなかった内容について、児童が課題追究の段階で自分の学習状況を振り返る時間をつくることで、新たな問いを見だし、より主体的に問題解決に向かうことができると考えた。

また、「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する力⁴」を、思考力・判断力を構成する力の一つとして挙げている。

本研究では、学習状況を確認し新たな問いを設定する場面について検討を重ねた結果、産業の発展、国民生活の向上について考えたり、国土の保全に関して課題を見だし問題解決に向かって選択・判断したりするような現代社会に見られる課題を見いだすことが、児童にとって主体的に学習問題を追究するために有効であると考えた。

以上のことから、本研究では研究主題を「自らの学習状況を確認しながら、主体的に学習問題を追究しようとする児童を育てるための社会科指導の工夫」と設定し、以下の2点を手だてとする。

第一に、課題追究の学習過程において、学習問題の解決に向けて、学習状況を確認する時間を設定する。自分の学習状況を振り返ることで、調べる中で出てきた考えや疑問について学級全体で整理したり、精選したりする。そうすることで、問題解決に向かって調べることが明確になり、主体的に社会に見られる課題について追究できるようになると考えた。

第二に、一単位時間の振り返りを記録し、児童が問題解決に向けて追究していくための支援となるワークシートを活用する。自分の学習状況を児童が一覧できるようにすることで、獲得した知識や自分が考察したことを整理して問題解決に向かっていく支援になると考えた。

³ 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」 文部科学省 p. 20

⁴ 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」 文部科学省 p. 17

II 研究仮説

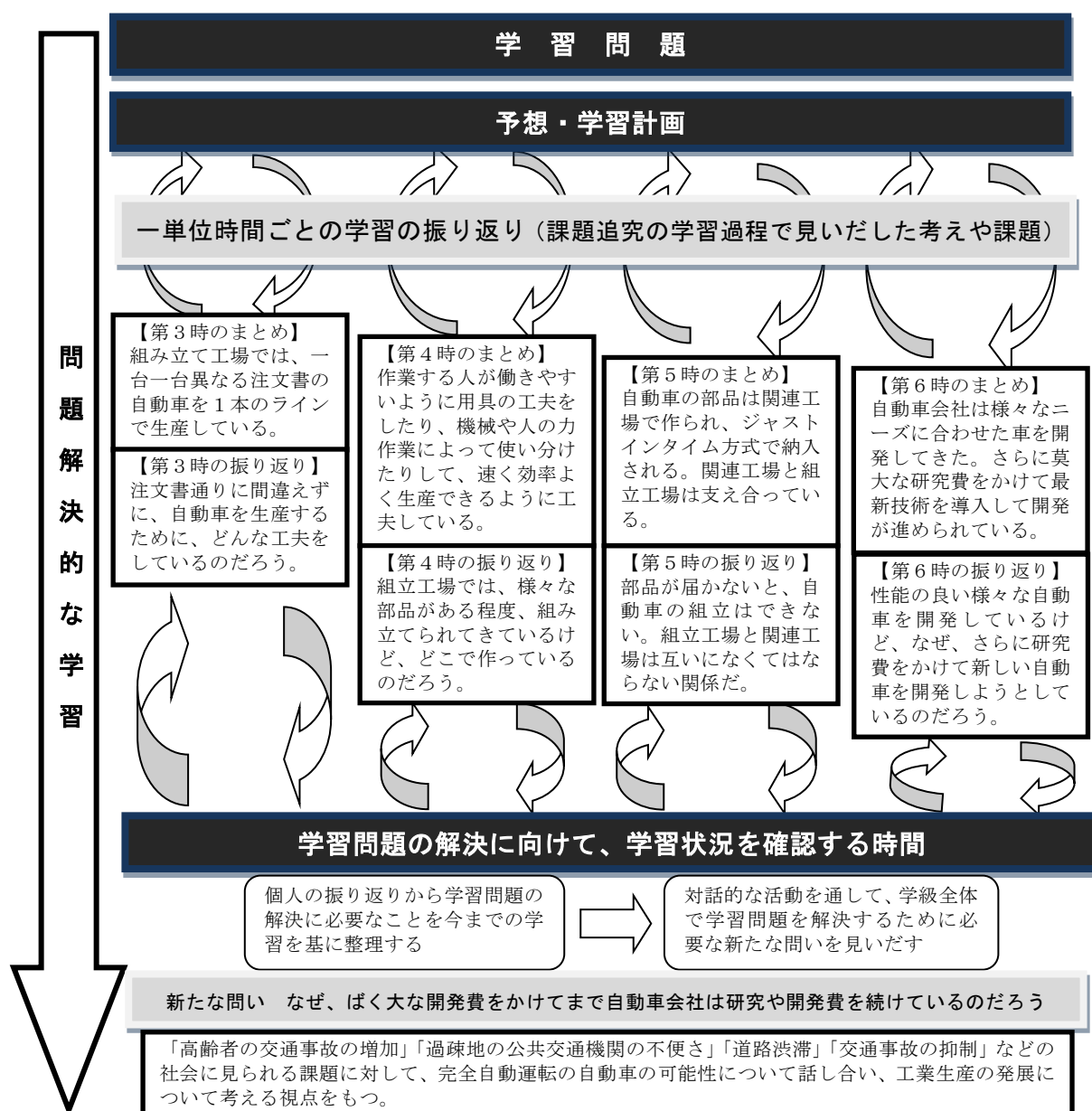
問題解決的な学習の充実を図るために、一単位時間の学びや自分の考えの変容を記録するワークシートを活用するとともに、学習したことを振り返り、自らの学習状況を確認する時間を指導計画に設定すれば、児童が主体的に学習問題を追究することができるだろう。

III 研究内容

1 学習問題の解決に向けて、学習状況を確認する時間の設定

社会に見られる課題に対する選択・判断を含む内容があり、単元を貫く課題が設定しづらい場合に、「学習問題の解決に向けて、学習状況を確認する時間」を課題追究の場面の途中で設定した。児童は、自分の学習状況を振り返り、問題解決に必要なことを整理し、さらに学級全体で何について調べると良いのかを吟味することで学習内容が明確になり、社会に見られる課題について主体的に学習できるようになると考えた。

【単元名「自動車をつくる工業」の課題追究のモデル】



2 自身の学びや変容を自覚できる「学びの足あとシート」の活用

児童が、自身の学びや変容を自覚して学習を進めることが、学習の連続性を意識して主体的に学ぶために有効だと考え、課題追究、問題解決の学習過程を一覧できるようにワークシートを活用した。児童には、「学びの足あとシート」(図1参照)という名称で実践を行った。

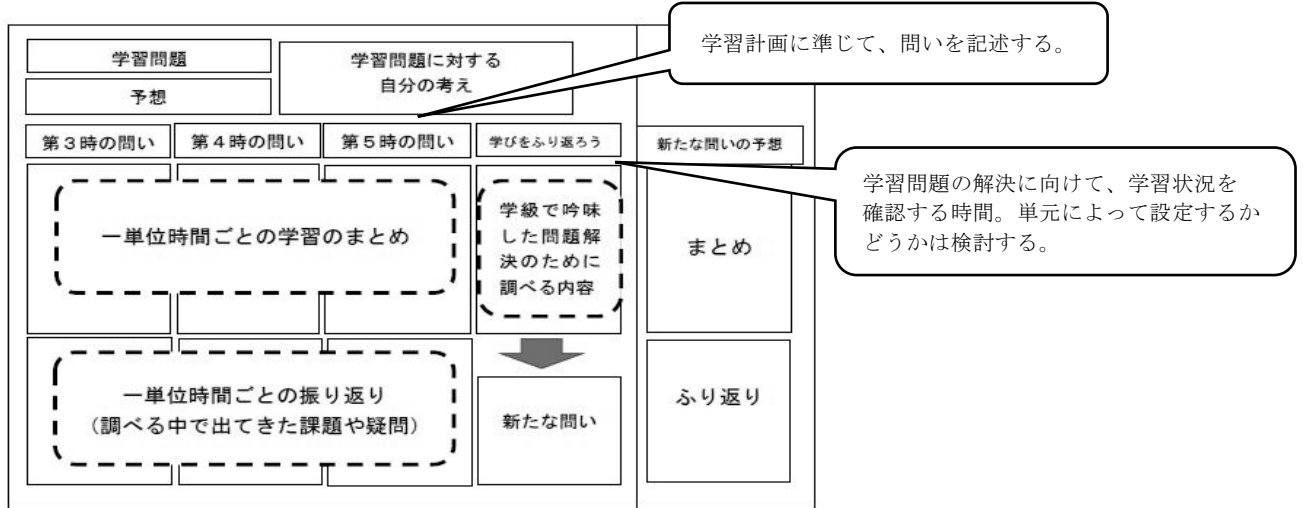


図1 「学びの足あとシート」モデル図

3 実践事例 単元「水産業のさかんな地域」(全8時間)

	時	○主な学習活動 問い ●児童の反応・〈疑問〉 ■分析	●主な学習資料
課題把握	1	○世界の中でも、日本の水産物消費量が多いことを知る。 わたしたちは、なぜこんなに多くの水産物を食べているのだろう。 ○日本の近海には豊かな漁場があることや主な漁港を調べる。 ○一方で、近年かつおが不漁であることを知り、学習を振り返る。	●給食の献立表 ●水産物消費量のグラフ ●かつお不漁のニュース映像 A 世界的な水産資源の減少
	2	○水産資源の現状を知り、水産業の課題などから学習問題を見いだす。 【学習問題】わたしたちが水産物を食べ続けていくために、だれがどのような工夫をしているのだろう。 ○学習問題の予想をし、学習計画を立てる。 ①水産物のとり方(獲る漁業) ②加工や輸送の仕方 ③養殖の仕方(つくり育てる漁業)	●さんま、桜えび不漁の記事 ●日本の漁獲量低下のグラフ ●世界の水産資源の状態 ●スーパーの魚売り場の写真
課題追究	3	とる漁業は、どのような工夫を行われているのだろう。 ○かつおのまきあみ漁と一本釣り漁の方法や工夫について、グループに分かれて調べ、発表し合う。 ○「学びの足あとシート」に、学習のまとめを書く。 ・加工の仕方によって、一度に効率的にとったり1本ずつ丁寧にとったりして、必要に応じて漁法を工夫している。 ○学習を振り返り、「学びの足あとシート」に考えや疑問などを書く。 ・農家の人と減り方が似ていた。〈機械化を進めていることから、水産業でも高齢化が問題なのかなと思った。〉〈漁獲量が減ってきているから、獲りすぎないように制限をかけている。だけど漁師さんは収入が少なくなってしまい、困っているのではないかな。〉 ■ロボットやソナーなどの機械化の工夫から、漁師の減少が予想された。その後、社会に見られる課題として漁師の減少の資料を提示することで、水産業の未来について考え、疑問を見いだすことができた。	●様々な漁法のイラスト ●かつおの回遊範囲の地図 ●まきあみ漁の動画・文章資料 ●一本釣り漁の動画・文章資料 ●遠洋漁業を営む漁師の話 ●200海里水域の地図 ●水産業で働く人数の変化のグラフ B 漁獲量の制限 C 漁師の減少
	4	水あげされた水産物は、どのようにして運ばれ、わたしたちのもとに届くのだろう。 ○水あげされたかつおやまぐろが、どのようにしてわたしたちのもとに届くのかを調べ、発表し合う。	

4	<p>○「学びの足あとシート」に、学習のまとめを書く。</p> <p>・水あげされた魚は新鮮なまま運ぶために保冷トラックなどを使ってより早く運ばれている。高速道路を使うので、交通費が高い。</p> <p>○学習を振り返り、「学びの足あとシート」に考えや疑問などを書く。</p> <p>・輸送や漁に使う道具などの経費がかかることで、魚の価格の中の漁師さんの分の割合が3割とは少ないと思った。〈このまま漁師さんの収入を上げないと、さらにあとつぎがいなくなってしまうのではないか。〉</p> <p>■「学びの足あとシート」を基にして、前時の漁師の減少と価格と費用の関係を関連付けながら考えることができ、さらに疑問を深めていくことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●水産加工施設の動画・文書資料 ●水あげから店に届くまで(写真、図) ●焼津港で水あげされた魚の主な出荷先と出荷量の地図 <p>●水産物の価格と費用のグラフ</p> <p>D価格と費用、E低い漁師の収入</p>
5	<p>つくり育てる漁業は、どのような工夫をして行われているのだろう。</p> <p>○養殖業の生産量が伸びていることを知り、養殖や栽培漁業がどのように行われているのかを調べ、発表し合う。</p> <p>○「学びの足あとシート」に、学習のまとめを書く。</p> <p>・養殖は人工的に丁寧に魚を育て、安定的に出荷できる。栽培漁業は人の手で卵をかえし稚魚を放流して自然で育ててから獲っている。</p> <p>○学習を振り返り、「学びの足あとシート」に考えや疑問などを書く。</p> <p>・とる漁業より、つくり育てる漁業の方が収入を安定させることができると思った。でも、〈赤潮の問題が続くと、海の環境が悪くなってまた不漁が続いてしまうのではないか。〉</p> <p>■「学びの足あとシート」を基にして、漁師の収入についての問題に対して解決につながる糸口を見いだしたが、一方で環境問題について知ることで、新たな問題に気付くことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の水産物生産量に占める養殖の割合 ●養殖の取組、漁師の話 ●栽培漁業の取組、漁師の話 <p>●赤潮の写真</p> <p>F海の問題</p>
6 本時	<p>○「学びの足あとシート」を基に、学習問題の解決のためにさらに調べる必要があることを話し合い、視点を明確にする。</p> <p>学びを振り返ろう さらにどんなことを解決すればよいだろう。</p> <p>＜グルーピングした結果、生まれた三つの視点＞ ①水産資源の乱獲 ②海の環境問題 ③後継者不足・収入減少</p> <p>新たな問い 日本の水産業の様々な課題に対して、どのような取組をしているのだろう。</p> <p>○学びの足あとシートに、学習の振り返りを書く。</p> <p>・みんなの疑問が整理されて、予想がたくさん書けた。国が作るルールがあるのではと思う。早く調べて解決したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「学びの足あとシート」 ●振り返りは、個人(付箋紙)→グループ(ホワイトボード)→全体(黒板)の順、でさらに学習する内容を整理する。 <p>既習の学習で出てきた課題を次のように整理した。 A, B →①水産資源の乱獲 A, F →②海の環境問題 C, D, E→③後継者不足・収入減少 (※分析は、次ページのV 研究の成果 1 参照)</p>
7	<p>日本の水産業の様々な課題に対して、どのような取組をしているのだろう。</p> <p>○日本の水産業がかかえる課題への取組について、グループで分担して調べ、発表し合う。</p> <p>○学びの足あとシートに学習のまとめを書く。</p> <p>・持続可能な水産業を目指して、働きがいや人材育成、水産資源の確保など様々な視点からの取組が行われている。</p> <p>○水産業に関わる人の中で、自分の位置はどこか考える。</p> <p>・自分や家族は、消費者として水産業に関わっている。自分にも何かできることがあると思う。みんなで考えてみたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●MSC海のエコラベルの取組 ●ASC養殖のエコラベルの取組 ●宮城県三陸沖の若手漁師による人材育成の取組 ●6次産業化の取組 <p>(※分析は、次ページのV 研究の成果 2 参照)</p>
課題解決	<p>8</p> <p>これからの水産業にとって大切なことは何だろう。</p> <p>○持続可能な水産業を目指した取組など、学習の全体について振り返り、これからの水産業の発展に対する自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●MSC日本事務所の職員の方の話 <p>(※児童の反応は、次ページのV 研究の成果 2 参照)</p>

IV 研究の成果

1 学習問題の解決に向けて、学習状況を確認する時間の設定

本時において、「学習問題の解決に向けて、学習状況を確認する時間」を設定することで、児童は、既習の学習内容や自分の学習状況を振り返り、問題解決のために必要なことを整理した。第5時までに見いだした疑問や社会に見られる課題は、個人によって内容や質に様々

な違いが見られたため、まず個人の疑問や解決すべき課題を付箋紙に書く活動を行った。その後グループで分類し、さらに学級全体で整理していくことで、児童は、「これはみんなが調べたいと思っていることで、必要な課題だと思う。」と対話的な活動を通して、さらに追究していく内容を3項目に焦点化させた。そこから、「日本の水産業の様々な課題に対してどのような取組をしているのだろう」という新たな問いを見いだすことができた。事後アンケート（令和元年11月35名、選択方式で実施、2でも同様）より、この一単位時間があつたことで、「調べたいことがはっきりした」と答えた児童が約80%、「さらに調べたくなった」と答えた児童が約90%であり、さらに学習問題を追究しようとする児童の姿が見られた点で、効果的であったと考える。

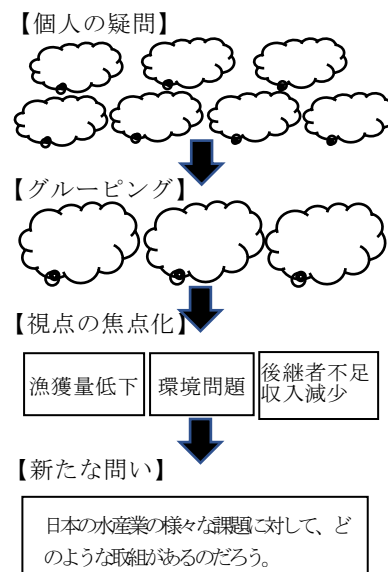


図2 課題解決に向けて学習計画を振り返る時間のモデル

2 自身の学びや変容を自覚できる「学びの足あとシート」の活用

課題追究の一単位時間ごとに「学びの足あとシート」を書きためることで、追究の時間を重ねる度に、既習の知識とともに、さらに調べたいことや疑問を振り返らせることができた。その結果、上記1の振り返りの時間において【新たな問い】を見いだしやすくなった。これまでの実践における児童の記述を分析した結果、産業の発展についての追究への意欲が高まり、主体的に学習を進める様子が見られた。また学習問題に対する自分の考えとして8割の児童が、これからの産業の発展や、自分が産業とどのように関わっていくかという視点で書くことができた。以下は「水産業のさかんな地域」における児童の変容の一例である。

<児童の「学びの足あとシート」の記述より>

《第6時》 新たな問い	《第7時》 新たな問いに対するまとめ	《第8時》 学習問題に対する自分の考え
日本の水産業の様々な課題に対して、どのような取組があるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 水産資源や海の環境を守る方法でとれた魚の商品に付けることができるMSC認証が発行されている。 養殖業でもASC認証があり、環境に配慮して育てている人がいる。 若者と漁師を繋ぐ役割を担う団体があり、若者が増えてきている。農業と同じように6次産業化をしている漁師も増え、収入の安定を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが水産物を食べ続けるために、漁師が効率よく魚を獲ったり、丁寧に養殖などをしたりし、輸送手段の発達により新鮮なまま私たちのもとに届けてくれている。持続可能な水産業のために海のエコラベルをPRして消費者に環境のことも考えて購入したり、生産者の収入を上げて担い手が働きやすい環境づくりをしたり、これからも水産資源を確保していくことに、水産業に関わって働く人たちも私たち消費者も関心をもち続けることが大切だ。
シートに書かれた内容をも基に全体でグルーピングし、視点を焦点化させた。	<p>社会に見られる課題に対し、様々な立場の人々が取組を進めていることを理解させ、新たな問いを解決させた。</p> <p>水産業に関わる人の中に、消費者という自分の存在に気付かせ、その大きさを考えさせた。</p>	<p>自分の社会との関わり方を考える視点をもたせたことで、学習した内容だけでなく、消費者の視点で持続可能な水産業のために大切だと考えたことについて書かせることができた。</p>

V 研究の課題

- 学習問題の解決に向けて、学習状況を確認する時間は、単元の特性により必ずしも設定しなくてもよい場合がある。年間指導計画の中で、どの単元で設定すると有効かを検討する必要がある。
- 「学びの足あとシート」は、問題解決に向けて、自分の考えを導けるように児童の思考を促すためのツールであることを認識したうえで、授業づくりを支える発問や学習活動の充実を引き続き吟味していくことが必要である。

自らの学習を振り返り、次時の見通しをもって学習問題を追究しようとする児童を育てるための社会科指導の工夫

I 研究主題設定の理由

本分科会で各部員の実践記録を分析した結果、課題追究の場面において児童にこれから学習することについての見通しをもたせることができていないという課題があることが分かった。そのため、児童の中には課題把握場面では意欲を高めることができて、課題追究場面では追究意欲が持続せず、受け身の学習になってしまい、主体的に追究できていない実態が見られた。この現状の原因として、課題追究場面において学習問題や学習計画を意識させたり、見通しをもたせたりするための振り返りの工夫が不十分であることが考えられた。

見通しと振り返りについては「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」において「主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しをもつことが必要である。そのためには、単元などを通じた学習過程の中で動機づけや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である⁵⁾」と示されている。

以上のことを踏まえ、第6学年分科会では研究主題を「自らの学習を振り返り、次時の見通しをもって学習問題を追究しようとする児童を育てる社会科指導の工夫」と設定した。本分科会では、見通しをもって学習問題を追究するためには、「次の時間に何を調べるかを児童が明確につかんでいること」「今まで自分が学習してきた過程を児童が振り返りやすいこと」が重要であると考えた。そこで、以下の二つの視点から授業実践を通して検証することとした。

第一に、次の時間に調べることを児童が明確につかむために、次時の課題に対する予想を文章化する活動を一単位時間の最後に行う。ここでは、設定した当初は大まかであった学習計画、予想を振り返らせ、獲得した知識を根拠として、次時の課題に対する予想をより明確にする。その結果として、児童は自分の予想を確かめるために何を調べたらよいかをつかむことができ、見通しをもって学習問題を追究することができるようになると考えた。

第二に、上記の活動を行う際に、自分の学習の過程を一覧できるようノートを活用する。課題把握場面で学習計画を立てる際にノートを見開き1ページ使い、学習問題、学習計画、毎時間の学習課題、毎時間の振り返りを一覧できるようにする。そのようにすることで、毎時間の振り返りを行う際に学習問題や学習計画、これまでの学習を根拠として活用しやすくなり、次時について予想がしやすくなると考えた。

II 研究仮説

問題解決的な学習の充実を図るために、一単位時間の振り返りを行う際、自身が学習してきた過程を一覧に整理したノートを活用するとともに、予想や学習計画を活用して次時の学習の見通しをもつ活動を設定すれば、児童は主体的に学習問題を追究することができるだろう。

⁵⁾「小学校学習指導要領（平成29年7月）解説 社会編」文部科学省 p. 8

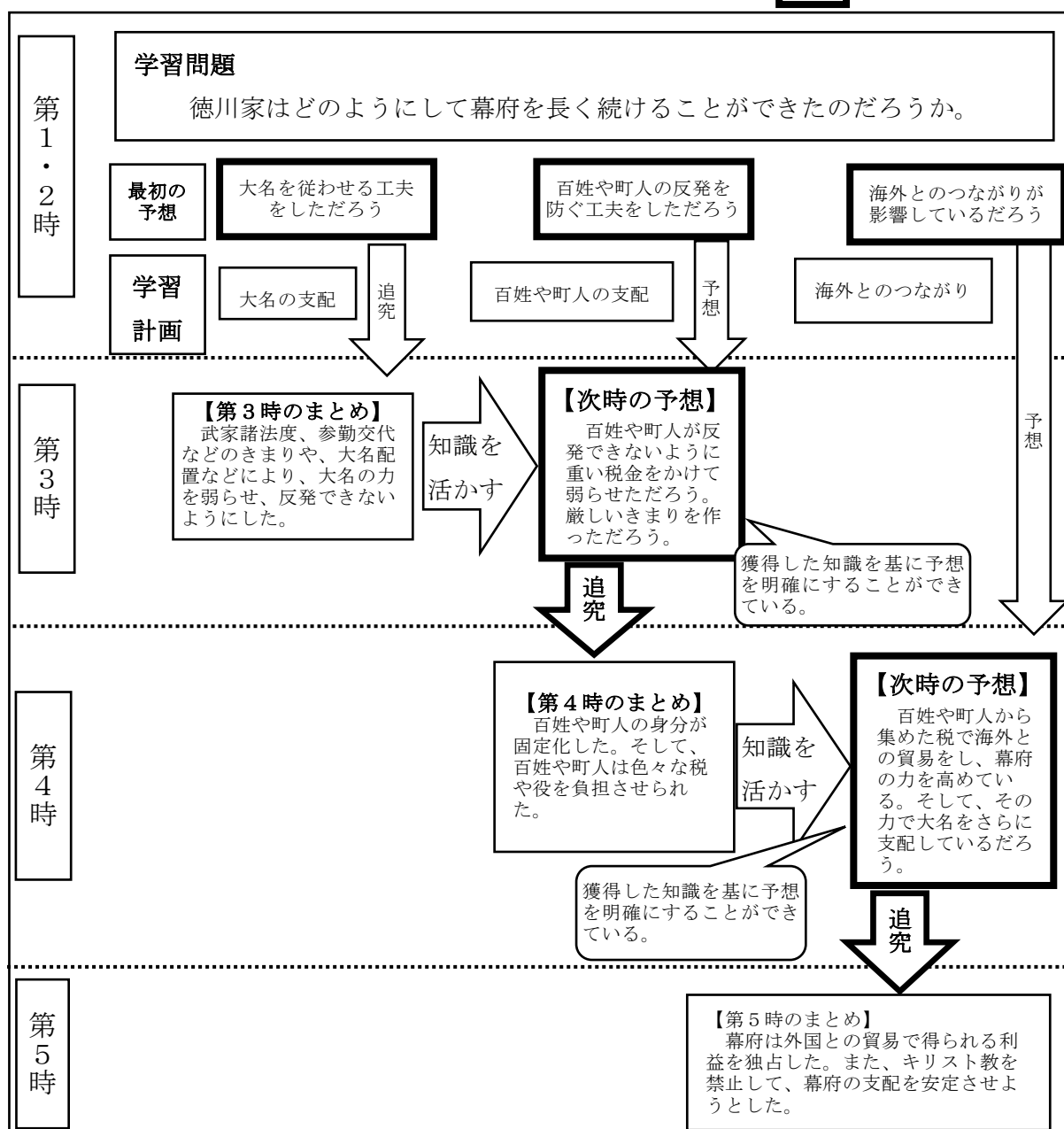
Ⅲ 研究内容

実践事例 小単元名「江戸幕府と政治の安定」と「明治の国づくりを進めた人々」を基に、二つの研究内容について説明する。

1 予想と学習計画を活用し、次時の学習の見通しをもつ活動の設定

本研究では、児童が見通しをもち、学習問題を追究することができるようにするために、振り返りとして次時の予想を明確にする活動を行う。一単位時間の終わりに振り返りをする
と、児童は板書やノートを確認しながら、その時間に獲得した知識を生かして課題把握場面で立てた学習問題の予想と学習計画を確認することができ、より明確な次時の予想をもつことができる考えた。児童の予想が明確になる思考の流れは下図の通りである。

振り返りを行うことによる児童の思考の流れ → 予想の記述



また、この振り返りを行う時間を確保するために、第3学年及び第4学年分科会の研究内容となっている「課題追究の学習過程における一単位時間の授業構成」を行うこととした。

2 「自身の学習過程を一覧に整理したノート」の活用

児童が振り返りを行う際、これまでの学習の過程が一覧になって見えるようにすることで、学習計画の確認を行いやすくする。単元の始まりでノートを見開きで、ページ左側には、学習問題作りで使用した資料、学習問題、学習問題に対する予想、学習計画を書く。ページの右側には各時間の学習課題と振り返りを書く。このように学習計画を活用した振り返りを行いやすくすることで、これまでの学習を根拠として次時の予想を立てやすくし、見通しをもてるようにする。

自身の学習過程を一覧に整理したノート活用の例

<p>10年ごとの国内内乱の数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時代</th> <th>内乱の数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1400-1410</td><td>4</td></tr> <tr><td>1410-1420</td><td>6</td></tr> <tr><td>1420-1430</td><td>12</td></tr> <tr><td>1430-1440</td><td>15</td></tr> <tr><td>1440-1450</td><td>17</td></tr> <tr><td>1450-1460</td><td>28</td></tr> <tr><td>1460-1470</td><td>29</td></tr> <tr><td>1470-1480</td><td>65</td></tr> <tr><td>1480-1490</td><td>65</td></tr> <tr><td>1490-1500</td><td>30</td></tr> <tr><td>1500-1510</td><td>40</td></tr> <tr><td>1510-1520</td><td>38</td></tr> <tr><td>1520-1530</td><td>15</td></tr> <tr><td>1530-1540</td><td>0</td></tr> <tr><td>1540-1550</td><td>0</td></tr> <tr><td>1550-1560</td><td>0</td></tr> <tr><td>1560-1570</td><td>1</td></tr> <tr><td>1570-1580</td><td>1</td></tr> <tr><td>1580-1590</td><td>1</td></tr> <tr><td>1590-1600</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	時代	内乱の数	1400-1410	4	1410-1420	6	1420-1430	12	1430-1440	15	1440-1450	17	1450-1460	28	1460-1470	29	1470-1480	65	1480-1490	65	1490-1500	30	1500-1510	40	1510-1520	38	1520-1530	15	1530-1540	0	1540-1550	0	1550-1560	0	1560-1570	1	1570-1580	1	1580-1590	1	1590-1600	1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時</th> <th>学習課題</th> <th>振り返り・次時の予想</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>江戸幕府は大名をどのように支配したのだろうか</td> <td>武家諸法度、参勤交代などによって大名は反乱できなかったが、江戸幕府に対して反抗心を抱いた大名は多くいるだろう。百姓や町人も反発ができないように重い税金をかけて弱らせたのではないだろうか。また、厳しいきまりも作っただろう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>江戸幕府は百姓や町人をどのように支配したのだろうか</td> <td>やっぱり百姓や町人も大名と同じように支配されていた。重い税をかけられた人々の不満は高まっていくと思う。百姓や町人から集めた税で海外との貿易をし、幕府の力を高めている。そして、その力で大名をさらに支配しているだろう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>江戸幕府は海外とどのようにつながっていたのだろうか</td> <td>やはり海外との貿易は行っていたが、幕府が独占していたのは驚いた。しかし、海外の技術などが国内に広まらないのはもったいないと思った。学習計画通りに調べることができたが、国民の不満が高まっているのを感じたので、この後どうなったのかを調べたいと思った。</td> </tr> </tbody> </table>	時	学習課題	振り返り・次時の予想	3	江戸幕府は大名をどのように支配したのだろうか	武家諸法度、参勤交代などによって大名は反乱できなかったが、江戸幕府に対して反抗心を抱いた大名は多くいるだろう。百姓や町人も反発ができないように重い税金をかけて弱らせたのではないだろうか。また、厳しいきまりも作っただろう。	4	江戸幕府は百姓や町人をどのように支配したのだろうか	やっぱり百姓や町人も大名と同じように支配されていた。重い税をかけられた人々の不満は高まっていくと思う。百姓や町人から集めた税で海外との貿易をし、幕府の力を高めている。そして、その力で大名をさらに支配しているだろう。	5	江戸幕府は海外とどのようにつながっていたのだろうか	やはり海外との貿易は行っていたが、幕府が独占していたのは驚いた。しかし、海外の技術などが国内に広まらないのはもったいないと思った。学習計画通りに調べることができたが、国民の不満が高まっているのを感じたので、この後どうなったのかを調べたいと思った。
時代	内乱の数																																																						
1400-1410	4																																																						
1410-1420	6																																																						
1420-1430	12																																																						
1430-1440	15																																																						
1440-1450	17																																																						
1450-1460	28																																																						
1460-1470	29																																																						
1470-1480	65																																																						
1480-1490	65																																																						
1490-1500	30																																																						
1500-1510	40																																																						
1510-1520	38																																																						
1520-1530	15																																																						
1530-1540	0																																																						
1540-1550	0																																																						
1550-1560	0																																																						
1560-1570	1																																																						
1570-1580	1																																																						
1580-1590	1																																																						
1590-1600	1																																																						
時	学習課題	振り返り・次時の予想																																																					
3	江戸幕府は大名をどのように支配したのだろうか	武家諸法度、参勤交代などによって大名は反乱できなかったが、江戸幕府に対して反抗心を抱いた大名は多くいるだろう。百姓や町人も反発ができないように重い税金をかけて弱らせたのではないだろうか。また、厳しいきまりも作っただろう。																																																					
4	江戸幕府は百姓や町人をどのように支配したのだろうか	やっぱり百姓や町人も大名と同じように支配されていた。重い税をかけられた人々の不満は高まっていくと思う。百姓や町人から集めた税で海外との貿易をし、幕府の力を高めている。そして、その力で大名をさらに支配しているだろう。																																																					
5	江戸幕府は海外とどのようにつながっていたのだろうか	やはり海外との貿易は行っていたが、幕府が独占していたのは驚いた。しかし、海外の技術などが国内に広まらないのはもったいないと思った。学習計画通りに調べることができたが、国民の不満が高まっているのを感じたので、この後どうなったのかを調べたいと思った。																																																					
<p>学習問題 徳川家はどのようにして幕府を長く続けることができたのだろうか。</p>																																																							
<p>予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名を従わせる工夫をしたらろう ・百姓や町人の反発を防ぐ工夫をしたらろう ・海外とのつながりが影響しているだろう 																																																							
<p>学習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大名の支配 ②百姓や町人の支配 ③海外とのつながり 																																																							

3 実践事例 小単元「明治の国づくりを進めた人々」(全6時間)

時	○学習活動	□留意点●学習資料
	振り返り 分析	
1	<p>江戸時代と明治時代の変化の様子を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大政奉還の絵から気付いたことを発表する。 ○大日本帝国憲法発布の絵から気付いたことを発表する。 ○二つの絵の間が20年であることを知り、大きく様子が変わった理由を考える。 ○ペリー来航の様子やその頃の世界情勢からペリー来航の目的を考える。 ○ペリー来航の目的を知り、その後日本が開国したかどうかそれぞれ考えて、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●絵「大政奉還」 ●絵「大日本帝国憲法発布」 ●絵「ペリー来航」 ●当時のアメリカ船と日本船の比較 ●絵「日本人が描いたペリー想像図」 ●この頃の政界情勢 ●フィルモアの手紙

課題追究	2	<p>○日本が開国したことを知り、結んだ条約について調べ考えたことを話し合う。</p> <p>○日本の内情を調べ話し合い、この先どうなったか考える。</p> <p>○無血開城について調べ考えたことを話し合う。</p> <p>○疑問を出し合い、学習問題を見いだす。</p> <p>【学習問題】誰がどのような国を目指し、どのようにして日本を変えていったのだろうか</p> <p>○学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。</p> <p>《予想》 【目指した国】 ・新しいリーダーが政治をするだろう。 ・外国に負けないように強い国を作ろうとするだろう。 【具体的取組】 ・幕府に反対した人たちが、前のような戦ではなく話し合いをしながら変えていった。 ・海外とたくさん貿易するだろう。 【生活面】 ・鎖国が終わったから外国の文化を取り入れたか支配されるかして政治も生活の様子も変わっていった。 《計画》 ①目指した国②具体的取組③生活面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大名の開国賛成反対グラフ ●日米和親条約 ●日米通商交渉条約 ●米の値段推移 ●絵「打ちこわし」 	<p>課題把握場面よりも次時の予想がより明確になっている。</p>
	3	<p>新しい政府はどのような国を目指したのだろうか。</p> <p>○明治維新について調べる。</p> <p>○調べて分かったこと、考えたことを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●廃藩置県の説明文 ●五箇条の御誓文 ●四民平等の説明文 ●大久保利通、木戸孝允、西郷隆盛の肖像画 	
	振り返り	<p>新しい政府は江戸時代とは違い、戦いの無い、平和な世の中を目指したのだと思った。明治維新を進めた人々の取組は、五箇条の御誓文の内容から考えると、人々の意見や外国のことを取り入れた政治を行ったと思う。</p>		
課題解決	分析	<p>この時間に「五箇条の御誓文」から政治の仕方が変わったこと、「廃藩置県」で中央集権化したことを読み取った。課題把握場面での予想に加えて、この時間で学んだ知識を活用することで、次時の見通しをもつことができています。</p>		
	4	<p>明治維新を進めた人々は、新しい国づくりのためにどのような取組を行ったのだろうか。</p> <p>○新しい政府の取組について調べる。</p> <p>○調べて分かったこと、考えたことを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●徴兵令、地租改正、殖産興業の説明文 ●大久保利通の肖像画 	
	振り返り	<p>新しい政府の取組を見ると、海外のことをとても意識しているのが伝わってきた。人々の生活の変化については、富国強兵の時に外国の技術を取り入れたから、生活にも外国の文化が入ってきたと思う。外国の文化を取り入れて日本の文化も変わっていったのではないかと。また、働く女性が増えたから豊かな生活をしていると思う。</p>		
課題解決	分析	<p>この時間に「富国強兵」を学び、西洋の技術を取り入れたこと、女性など多くの人が働いたことを読み取った。課題把握場面での予想に加えて、この時間で学んだ知識を活用することで、次時の見通しをもつことができています。</p>		
	5	<p>明治時代になり、人々の生活はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○明治時代の人々の生活について調べる。</p> <p>○調べて分かったこと、考えたことを交流する。</p> <p>○本時の学習のまとめを書く。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、まとめの準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●江戸時代末期の日本橋の絵図 ●明治時代の日本橋の絵図 ●小学校へ通う子供の割合 ●学制 ●福沢諭吉の肖像画 	
	振り返り	<p>福沢諭吉が西洋の文化を取り入れて日本の文化が変わった。それが今につながっていると思う。人物関係図では、大久保利通を中心に、行ったことを関連付けて、日本がどのように変わっていったかをまとめてみたい。</p>		
6	<p>調べてきたことを基に人物関係図をつくり、学習問題に対する自分の考えをまとめよう。</p> <p>○明治維新では、どのような人々が国の仕組みや社会を変えていったか、キーワードを挙げて振り返る。</p> <p>○西郷隆盛、木戸孝允、大久保利通などを中心に調べてきたことを関係図に整理する。</p> <p>○学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>【学習問題に対しての自分の考え】 日本が開国するかしないかで対立があったけれど、開国したことによって、外国の文化も入り、日本が強くなったと思います。明治時代に関わった人たちは、自分にできることを実行していてすごいなと思いました。そして、短い期間で生活が便利になったことは、今の私たちの生活にもつながっていることを知り、これからの自分たちの時代も自分にできることを行っていきたいと思います。</p>			

IV 研究の成果

1 予想と学習計画を活用し、次時の学習の見通しをもつ活動の設定

児童の振り返りを分析すると、下記のように獲得した知識を活用して学習計画を振り返り、次の時間に調べることとそれに対する予想をより明確にすることができた児童が7割以上見られた。このことから、振り返りを通して児童が次の時間の見通しをもつことができ、主体的に学習問題を追究することができたものと考えられる。

振り返りを通して児童が見通しをもてた例

	課題把握場面(2/6)での第4時の 予想(大まかな状態)	課題追究場面(3/6)での第4時の 予想(明確な状態)
児童の 反応	西洋の技術を取り入れているだろう。	西洋の技術を取り入れながら、国民の意見を聞いたり、国民の力を借りたりして強い国を作ろう。
分析	課題把握場面で「大日本帝国憲法発布」の資料から服装等が西洋化していることを読み取った。さらに当時の列強の進出の様子を読み取ったことから西洋の技術を取り入れて国力を上げようとしたと児童は考えた。	この時間に「五箇条の御誓文」から政治の仕方が変わったこと、「廃藩置県」で中央集権化したことを読み取った。課題把握場面での予想に加えて、この時間で学んだ知識を活用することで、次時の見通しをもつことができている。

	課題把握場面(2/6)での第5時の 予想(大まかな状態)	課題追究場面(4/6)での第5時の 予想(明確な状態)
児童の 反応	西洋の文化を取り入れているだろう。	富国強兵の時に西洋の技術を取り入れたから生活にも外国の文化が入ってきたと思う。外国の文化を取り入れて日本の文化も変わっていったのではないかな。また、働く人が増えたから豊かな生活をしていると思う。
分析	「大日本帝国憲法発布」の資料から服装等が西洋化していることは読み取ったため、国民の生活も西洋の文化を取り入れていると児童は考えた。	この時間に「富国強兵」を学び、西洋の技術を取り入れたこと、女性など多くの人が働いたことを読み取った。課題把握場面での予想に加えて、この時間で学んだ知識を活用することで、次時の見通しをもつことができている。

2 「自身の学習過程を一覧に整理したノート」の活用

児童へのアンケート調査から、自分の学習の過程を見えやすくするノートの活用をすることで、学習問題・学習計画を意識して学習することができるようになった様子が見られた。また、それぞれ

児童へのアンケート調査	事前	事後
学習問題、学習計画を意識して学習をしている。	35%	90%
それぞれの時間で何を調べることが分かる。	43%	90%

の時間で何を調べたらよいか、見通しをもちやすくなったと回答している児童の割合が高まった。さらに、児童に本実践のノート活用の良さについて質問を行った。そこでは「最初(課題把握場面)の自分の予想を振り返りやすいのが良い」「最初の予想も大切にしようと思うようになった」などの感想も見られた。

V 研究の課題

- 例えば「日本とつながりの深い国々」の単元など、指導内容と指導計画によっては、獲得した知識を活用して次の時間に調べることと、それに対する予想を明確にしにくい場合もあり得る。その際には予想の根拠となる資料提示を行うなどのさらなる手だてを検討する必要がある。
- ノートの活用については、限られた単元での検証であったため、様々な単元での検証を続けていく必要がある。

平成 31 年度 (2019 年度) 教育研究員名簿

小学校・社会

中学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
文 京 区 立 大 塚 小 学 校	主任教諭	高 橋 淳
品 川 区 立 豊 葉 の 杜 学 園	主任教諭	山 賀 愛
目 黒 区 立 五 本 木 小 学 校	主幹教諭	○久 野 歩
大 田 区 立 西 六 郷 小 学 校	主任教諭	内 藤 良 英
三 鷹 市 立 東 台 小 学 校	主任教諭	小 池 梨 紗
小 平 市 立 小 平 第 八 小 学 校	主任教諭	市 川 昌 浩
福 生 市 立 福 生 第 六 小 学 校	主幹教諭	中 島 惠 大

第 5 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
江 東 区 立 豊 洲 北 小 学 校	主任教諭	松 尾 美 希
世 田 谷 区 立 瀬 田 小 学 校	主任教諭	○草 薨 堅 太 郎
江 戸 川 区 立 船 堀 小 学 校	主幹教諭	中 澤 友 覚
西 東 京 市 立 け や き 小 学 校	主任教諭	吉 田 真 也

第 6 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
新 宿 区 立 落 合 第 四 小 学 校	主任教諭	香 取 桜 子
世 田 谷 区 立 松 丘 小 学 校	主任教諭	村 田 祐 基
府 中 市 立 府 中 第 四 小 学 校	主幹教諭	◎向 井 隆 一 郎
多 摩 市 立 北 諏 訪 小 学 校	主任教諭	○坪 田 真 尚

◎ 全体世話人 ○ 分科会世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 辻 慎二

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
小学校・社会

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849